

平成26年度スーパーグローバルハイスクール構想の概要

指定期間	ふりがな	かんせいがくいんこうとうぶ				②所在都道府県	兵庫県
26～30	①学校名	関西学院高等部					
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	26年度まで 1学年 300名 男子のみ 27年度から 1学年 350名 男女共学 (認可申請中)	
普通科	310	311	308	—	929	*普通科/在籍生徒総数 929名	
GLPプログラム	(30)	(10)		(40)			
⑥研究開発構想名	「国際化重点大学との高大連携による実践的課題解決能力の育成」						
⑦研究開発の概要	全生徒対象と選抜された生徒対象の二層構造のプログラムを実施し、同一校地に位置する国際化に重点を置く大学との高大連携による課題研究およびその他の研修プログラムを通じて、高校生の目を国際社会に向けさせ、グローバル人材としての資質を高める。また、大学進学後のグローバル人材育成推進事業への参加を促進する。						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標 グローバル・リーダーとして必要な総合的人間力などの資質を育成し、国際社会に目を向けさせる。そのために「国際協力」を主たるテーマとした課題研究などを通じて高大連携を効率的に進める。全生徒を対象とする「GGP (General Global Program)」と、選抜された生徒を対象とする「GLP (Global Leader Program)」の二層構造のプログラムを実施し、理念目標の実現のために課題に取り組む。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説 伝統的に、卒業論文作成のための探究型の授業である「読書科授業」を昭和50年(1975年)から行っており、英語教育・国際交流も盛んな本校である。また、大半の卒業生が、文部科学省のグローバル人材育成推進事業(全学推進型)に採択された「国際化に重点を置く大学」である関西学院大学に進学する継続校であり、かつ、関西学院大学の8学部が同一校地にある。これらのことから、そのメリットを最大限に活かしてグローバル人材の育成にあたることにより、生徒の関心を国際的な問題に向け、人材育成を進めることができる。</p> <p>(3) 成果の普及 大学の継続校をはじめ高大連携型プログラムの有効性を主たるテーマに、定期的出版物の発行、SGH研究会の開催を通じて成果の普及に努める。</p>					
		⑧-2課題研究	<p>(1) 課題研究内容 国際連合、JICA、国際赤十字などの活動を元に、「国際協力」に関する諸問題(国際的課題や特定の国や地域、紛争などの問題)に関して、課題研究を行い、論文を作成する。例えば、「途上国における「就学率」「識字率」向上など教育開発を進める上での課題について」「アジア諸国における異なる宗教的・文化的背景が、政治・経済に与える影響について」「途上国における「交通インフラ」整備と環境問題のバランスについて」など</p> <p>(2) 実施方法・検証評価 【実施方法】 ①論文作成: 1年次より読書科授業(総合学習の時間)で、論文の書き方を全体に指導。2年次に論文テーマを決めて、卒業論文として作成。(その過程で、関西学院大学の教員のサポートを受ける。) ②特別「高大連携プログラム」: 文部科学省平成24年度グローバル人材育成推進事業(全学推進型)採択の関西学院大学「実践型“世界市民”育成プログラム」への直接的参加(授業参加、聴講、一部単位認定)(3年次)</p>				

	<p>③学校設定科目 「グローバル・スタディ」： 外国人教員（大学教員）の担当授業で、英語を用いて「課題研究」を進める。 （高1、高2 1単位、高3 2単位）</p> <p>④GLP フォーラム： 外国人留学生とのワークショップを通して、課題研究を進めるなど（年2回）</p> <p>⑤GLP セッションデイ： 大学の研究者、国際機関、企業と連携した研修（年2回）</p> <p>⑥フィールドワーク：「国際協力」というテーマに関連した国外フィールドワークを実施、<u>行き先はラオスまたはカンボジア、農村部訪問、日本の国際貢献の実地研修</u> 国内でのフィールドワークも実施 <u>JICA 地球村、アジア学院訪問など</u></p> <p>【検証評価】</p> <p>①は、優秀論文の審査・公開プレゼンテーション、卒業発表会を通じて評価を受ける。 ②特別「高大連携プログラム」は、大学の担当教員からその評価を受ける。 ③は担当教員が成績をつけ単位認定する。 ④～⑤については、参加者のレポート・アンケートで検証評価する。</p> <p>(3) 必要となる教育課程の特例等 指導要領に決められた教育課程の変更等は必要としないが、GLP 選択生徒対象の学校設定科目として、「グローバル・スタディⅠ」「グローバル・スタディⅡ」「グローバル・スタディⅢ」を、英語科に属する科目として設定する。</p>
<p>⑧ -3 上 記 以 外</p>	<p>(1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価</p> <p>【内容】</p> <p>①ヒューマンスキルアップ・プログラム： 異文化コミュニケーション力の研修（年2回）</p> <p>②GLP セミナー： 日本、日本文化などを知る研修（年3回）</p> <p>③コミュニケーション・ツールとしての語学力を高める取組： 英語力をはかる各種検定試験受験・対策講座履修、第二外国語の授業履修</p> <p>④GGP グローバルセミナー： 全生徒を対象にした世界に目を向ける研修（年3回）</p> <p>【実施方法】 それぞれ授業外の日程、時間に実施する。 ただし、大学授業の受講は時間割によって高校の授業時間帯となる場合がある。 ③は外部委託する。</p> <p>【検証評価】 参加者のレポート、アンケートで検証評価する。</p> <p>(2) 課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等 特になし</p> <p>(3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備，教育課程課外の実施内容・実施方法 従来通り、海外帰国生入試を継続し、また、これまでも積極的に行ってきた海外の高校との交換留学の奨励、海外からの留学生受入促進に取り組む。</p>
<p>⑨その他 特記事項</p>	<p>関西学院大学「実践型”世界市民”育成プログラム」担当の大学教員を中心としたアドバイザーズ会議を組織し、本研究開発に対して、指導や支援・協力を常時受ける体制とする。</p>

ふりがな	がっこうほうじん かんがくいん かんせいがくいんこうどうぶ	指定期間	26～30
学校名	学校法人 関西学院 関西学院高等部		

平成26年度スーパーグローバルハイスクール 目標設定シート

1. 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）									
		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
a	自主的に社会貢献活動や自己研鑽活動に取り組む生徒数								
	SGH対象生徒:								320人(30年度)
	SGH対象生徒以外:	90人	90人	人	人	人	人	人	人
b	自主的に留学又は海外研修に行く生徒数								
	SGH対象生徒:								90人(30年度)
	SGH対象生徒以外:	34人	38人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 学年約300人のうち約一割が海外に行くことを希望することを目指す。									
c	将来留学したり、仕事で国際的に活躍したいと考える生徒の割合								
	SGH対象生徒:								60%(28年度)
	SGH対象生徒以外:	20%	20%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 留学時期等の諸条件はあるが、海外志向のマインドを持った生徒を増やす									
d	公的機関から表彰された生徒数、又はグローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における入賞者数								
	SGH対象生徒:								10人(29年度)
	SGH対象生徒以外:	3人	2人	人	人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 今後、対象となる行事等が増えるので、積極的に参加するように奨励する。									
e	卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合								
	SGH対象生徒:								75%(30年度)
	SGH対象生徒以外:	35%	35%	%	%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 英語か授業等の中で、四技能の統合的発達に取組み、能力を上げる。									
f	国際的な問題に関心を持つ生徒の割合								
	SGH対象生徒:								90%(30年度)
	SGH対象生徒以外:	30%	30%						
目標設定の考え方: 色々な取組を通して、グローバル社会への積極的姿勢をほぼ全員に形成する。									

1' 指定4年目以降に検証する成果目標								
	24年度	25年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	目標値(年度)
国際化に重点を置く大学へ進学する生徒の割合								
a	SGH対象生徒:							96%(29年度)
	SGH対象生徒以外:		95%	95%	%	%	%	%
目標設定の考え方: 国際化に重点を置く大学の継続校なので、この目標は自明的に達成できる								
海外大学へ進学する生徒の人数								
b	SGH対象生徒:							3人(29年度)
	SGH対象生徒以外:		1人	1人	人	人	人	人
目標設定の考え方: 大学の継続校であることから、多くの人数は望めないが、少数でもそういう生徒を育てたい。								
SGHでの課題研究が大学の専攻分野の選択に影響を与えた生徒の割合								
c	SGH対象生徒:							75%(32年度)
	SGH対象生徒以外:		-	-	%	%	%	%
目標設定の考え方: 課題研究が、進路選択に関わるような流れを強めていきたい。								
大学在学中に留学又は海外研修に行く卒業生の数								
d	SGH対象生徒:							120人(33年度)
	SGH対象生徒以外:		-	-	人	人	人	人
目標設定の考え方: 大学に進学すれば、経済的、時間的に、留学等をしやすくなるので、増加が望める								

2. グローバル・リーダーを育成する高校としての活動指標（アウトプット）								
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	目標値(年度)
a	課題研究に関する国外の研修参加者数							
	0人	0人						25人(29年)
	目標設定の考え方: プログラムは初期には参加者が少ないと予想されるが、経験者からの体験談などで増えていくと予想する。							
b	課題研究に関する国内の研修参加者数							
	10人	10人						35人(29年)
	目標設定の考え方: 諸事情で海外に行けない場合もあるので、国内の実地研修も充実させていく。							
c	課題研究に関する連携を行う海外大学・高校等の数							
	2校	2校						5校(28年)
	目標設定の考え方: 現在も海外に5校の提携校があるが、研究的な関係は2校にとどまるので、大学も含み、研究関係を深める							
d	課題研究に関して大学教員及び学生等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	20回	20回						125回(29年度)
	目標設定の考え方: 大学に隣接しているメリットを活かし、大学教員・生徒の参画した回数を着実に増やしたい							
e	課題研究に関して企業又は国際機関等の外部人材が参画した延べ回数(人数×回数)							
	0回	0回						20回(29年度)
	目標設定の考え方: 企業や国際機関との連絡を密にして、参画回数を増やしていく							
f	グローバルな社会又はビジネス課題に関する公益性の高い国内外の大会における参加者数							
	150人	150人						250人(29年度)
	目標設定の考え方: 現在も授業内で、関学大ビジネスプランコンテストに参加しているので、それをベースに増やしていく							
g	帰国・外国人生徒の受入れ者数(留学生も含む。)							
	5人	4人						15人(29年度)
	目標設定の考え方: 帰国生入試は減少傾向にあるので、それを増やす努力を行い、海外からの留学生も受入を積極的に行う。							
h	先進校としての研究発表回数							
	1回	1回						3回(30年)
	目標設定の考え方: 研究成果の発表に努め、できるだけ行うことを目指す。							
i	外国語によるホームページの整備状況 ○整備されている △一部整備されている ×整備されていない							
	×	×						○
	目標設定の考え方: 現在は、整備されていないので、三年後に完成するように整備する。							
j	(その他本構想における取組の具体的指標) 生徒が課題研究やSGH活動を発表する機会の数							
	0回	0回						2回(28年度)
	目標設定の考え方: 秋と、年度末に研究発表を生徒がする機会を持つ							

<調査の概要について>

1. 生徒を対象とした調査について

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
全校生徒数(人)	926	922					
SGH対象生徒数							
SGH対象外生徒数							